

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《マクベス》：
パリ初演(1865)のための台本改訂について(続)

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: ja 出版者: 公開日: 2014-12-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/918 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《マクベス》 ——パリ初演（1865）のための台本改訂について（続）——

園田みどり

（1）はじめに

ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813 ~ 1901) の《マクベス *Macbeth*》は、彼の10作目のオペラであると同時に、ウィリアム・シェイクスピア William Shakespeare (1564 ~ 1616) に基づくヴェルディの3つのオペラの第1作にあたる。1847年3月14日のフィレンツェ、ベルゴラ劇場における初演を経て、ヴェルディは国際的な舞台でその成果を問うべく、《マクベス》をパリで上演したいと考えた。しかし様々な理由で、パリ初演が実現するのは、ようやく1865年4月21日と、実に18年も後のことだった¹。

パリ初演に先立って、1864年6月下旬には、ヴェルディのフランスにおける楽譜出版社レオン・エスキュディエ Léon Escudier (1821 ~ 1881) が彼の許を訪れ、初演を行う歌劇場、リリック座の監督レオン・カルヴァロ Léon Calvalho (1825 ~ 1897) の意向を伝えてきた。その折ヴェルディは、3曲のバレエを新たに加え、最終場面を「マクベスの死」から変更して、合唱でオペラを終えるようにしたい、という彼らの提案を受け入れた²。だが、同年10月に実際に改訂作業に取りかかってみると、不満な箇所が目についてしまい、もっと広範囲に手を入れる必要があると自覚するに至った。こうして、当初の見込みをはるかに上回る、全15の番号曲のうちの8つが改訂の対象となり、第7a、第11a、第15a番、計3つの番号曲については³、

1 パリ初演に至る経緯については、以下の拙文の71～73頁を参照。園田みどり 2013a: 「ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《マクベス》——パリ初演（1865）のための台本改訂について」『東京音楽大学研究紀要』第37集:71-89。なおフィレンツェ初演については、以下の2つの拙文を参照。園田みどり 2011: 「ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《マクベス》——フィレンツェ初演版（1847）の台本成立経緯について」『武蔵野音楽大学研究紀要』第43号:105-122、および園田みどり 2012: 「ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《マクベス》——フィレンツェ初演版（1847）の成立経緯について」『東京音楽大学研究紀要』第36集:23-45。

2 ジェノヴァ発 1865年2月15日付、ヴェルディによるティト・リコルディ Tito Ricordi (1811 ~ 1888) 宛書簡を参照。以下の105頁に掲載されている。Rosen, David and Andrew Porter, eds. 1984. : *Verdi's Macbeth: A Sourcebook*. New York and London: Norton.

3 《マクベス》の批判校訂版 (Verdi, Giuseppe. *Macbeth: Melodramma in Four Acts, libretto by Francesco Maria Piave and Andrea Maffei*. Edited by David Lawton, 2 vols and Critical Commentary. *The Works of Giuseppe Verdi*, Series I, Operas, v. 10. Chicago and London: The University of Chicago Press, Milano: Ricordi, 2005、以下 **WGV10** と略記) における表記に倣い、パリ初演時に改訂された番号曲については、小文字 a によってフィレンツェ初演版であることを示す。

楽譜のみならず台本の一部を書き換え、新たな歌詞を用意することになったのである⁴。

この3つの番号曲の一つである第7a番については、ヴェルディと台本作家フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ Francesco Maria Piave (1810～1876) の間で交わされた書簡に基づいて、新しい歌詞がどのようにして成立したのかを、すでに整理・確認した⁵。本稿では、残る2つの番号曲、第11aと第15a番の歌詞改訂について、ヴェルディとピアーヴェの書簡の他、現存する手書きのメモ等を参照し、その経緯をたどることとする。この2つの番号曲の改訂に際しては、ヴェルディはサンタガタを訪れたピアーヴェと相談しながら原案となる詩行を作成し、後日さらに彼と書簡を交わして推敲を加えた。そのため、第7a番とは異なって、新しい台本部分のためのいわゆる「散文スケッチ *selva*」は存在しない⁶。また残念なことに、推敲時のピアーヴェ側の書簡には、今日失われたものがある。従って、全容の解明には困難な点もあるが、残された証言から、1865年の時点でヴェルディがどのような詩行を求めたのかを推測することとする。

(2) 第3幕、レチタティーヴォ、幻影、舞曲風の部分、マクベスのアリア〔第11a番〕の改訂

ヴェルディが第11a番（フィレンツェ初演用自筆総譜におけるタイトルは、「レチタティーヴォ、幻影、舞曲風の部分、マクベスのアリア *Recitativo, Apparizioni, Ballabile ed Aria Macbeth*」⁷）の改訂の必要性を明確に意識したのは、1864年10月中旬のことである⁸。フィレンツェ初演時印刷台本の幕割りによれば、第11a番は第3幕第2場から第4場までに相当する⁹。概要は以下のとおりである。まず第3幕第2場で、マクベスは魔女たちの洞穴を訪ね、自らの運命を問いただす。彼は魔女たちから3つの予言（①マクダフに注意せよ、②女から生まれた者に傷つけられることはない、③バーナムの森が迫って来ない限り負けることはない）を受けるものの、飽きたらず、バンクォーの子孫たちが今後どうなるのかを教えるように迫った。そうして、彼はバンクォーも含む8人の王の幻影を見ることになる¹⁰。恐れをなしたマクベスは失神し、魔女たちは大気の精霊たちを呼び出して彼のまわりで踊らせる。その間、彼女たちは合唱を歌う（第3場、舞曲風の部分）。彼らの姿が消えると、第4場でマクベスは一人残って意識を取

4 園田2013aを参照。

5 同前。

6 登場人物の台詞の内容をひとまず散文で記したもののこと。台本作家の主な仕事は、それをしかるべき形の韻文に置き換えることである。「散文スケッチ」が19世紀のイタリア・オペラの創作においてどのような位置を占めるのかについては、園田2011: 106-107 および注9を参照。

7 **WGV10**の別冊校訂報告書185、271頁を参照。

8 ヴェルディはエスキューディエ宛の書簡（ブッセート発1864年10月22日付）の中で、バレエ以外に改訂すべき箇所を簡条書きにして示している。その中に「第3幕のマクベスのアリアを完全に書き換える *Rifare completamente Aria Macbet Atto III*」との記述が見られる。これは、ヴェルディが第11a番の改訂に言及した最も古い証言である。書簡の全文は、園田2013a: 72 に対訳と共に掲載した。

9 **WGV10**では **FI**⁴⁷ と略記されている。別冊校訂報告書40-41頁に詳しい書誌情報がある。本稿では Rosen and Porter, eds. 1984: 469-478 に掲載されているファクシミリを使用する。

【資料 1】

フィレンツェ初演時印刷台本 (F1⁴⁷)、21頁 (1847年四句節)

SCENA II. 第2場。
MACBETH. *Le precedenti.* マクベス。上述の者たち。
Mac. *Che fate voi misteriose donne?* マクベス お前たちは何をしているのか、神秘的な女たちよ。

リコルディによる汎用印刷台本 (R1⁶⁵)、22頁 (1865年5月)

SCENA III. 第3場。
Macbeth. *Le Precedenti.* マクベス。上述の者たち。
Mac. *(sull'ingresso, parlando ad alcuno de' suoi)* マクベス (入口のところで、従者たちの誰かと話ながら)
Finché appelli, silenzii m'attendete. 声をかけるまで、黙って私のことを待っていておれ。
(si avvanza verso le Streghe) (魔女たちの方に進み出て)
Che fate voi, misteriose donne? お前たちは何をしているのか、神秘的な女たちよ。

戻す。続いて、マクダフの城塞を襲撃して妻子を皆殺しにする決意を歌い、幕となる。

ロートンが指摘するとおり、ヴェルディは第11a番を独唱の番号曲として構想したと思われる¹¹。一方、パリ初演を経た新しい台本の最終稿である、リコルディによる汎用印刷台本では¹²、まず第3場¹³の冒頭に新しい歌詞1行と、ト書きが2つ書き加えられる(本稿89頁【資料1】の二重下線強調部分を参照)。さらに重要な改変として、番号曲の最後に位置していたカバレッタの歌詞、「炎に包まれ、灰燼に帰すがいい *Vada in fiamme, e in polve cada*」と、それ

- 10 ゴルディンも指摘するとおり (Goldin, Daniela. 1985. : “Il *Macbeth* verdiano: Genesi e caratteri di un libretto.” In *La vera fenice: Librettisti e libretti tra Sette e Ottocento*, 230-282. Torino: Einaudi [= Goldin, Daniela. 1979. : “Il «Macbeth» verdiano: Genesi e linguaggio di un libretto,” *Analecta musicologica*.19: 336-372] の237頁)、シェイクスピアの原作(本稿では Shakespeare, William. 1990. : *The Tragedy of Macbeth*. Ed. by Nicholas Brooke. Oxford, Oxford UP を参照)においては、マクベスは8人の王(そのうち最後の王が手に鏡を持つ)とバンクォー、計9人の幻影を見るが、ヴェルディの台本では幻影は全部で8人であり、8人目の王が手に鏡を持ったバンクォーである。ゴルディンによれば、この誤りは1700年代と1800年代の多くの『マクベス』の翻訳にあるもので、フィレンツェ初演時にヴェルディの《マクベス》の台本を校閲したマッフェイ Andrea Maffei (1798～1885) が、1863年にイタリア語に翻訳した、シラー Friedrich von Schiller (1759～1805) 翻案の『マクベス』(1800)においても、同様である。マッフェイの翻訳では、問題のト書きは以下の114頁に読むことができる。Shakespeare [sic], Guglielmo and Carlo Gozzi. 1863. : *Macbeth: Tragedia di Guglielmo Shakespeare* [sic], *Turandot: Fola tragicomica di Carlo Gozzi, imitate da Federico Schiller, e tradotte dal Cav. Andrea Maffei*. Firenze: Le Monnier. 一方、ヴェルディが愛読していたルスコーニ訳『マクベス』(1838)においては、「鏡 *specchio*」という単語に「魔法の *magico*」という原作に由来しない形容詞が添えられているものの、やはり8人の王の最後の一人として、鏡を手にしたバンクォーが現れる。Shakespeare, William. 1838. : *Teatro completo di Shakespeare tradotto dall'originale inglese in prosa italiana da Carlo Rusconi*, 2 voll. Padova: coi tipi della Minerva の第1巻17頁を参照。
- 11 **WGV10**の別冊校訂報告書185-186頁。19世紀のイタリア・オペラにおいて、独唱の番号曲は通常「導入部 *Scena*」、「カンタービレ」、「中間部 *Tempo di mezzo*」、「カバレッタ」という4つの下位区分を持つが、ロートンによれば、この番号曲の場合は「導入部」と「カンタービレ」の間に「第1部 *Primo tempo*」があり、そこでマクベスは魔女たちから3つの予言を受ける。「カンタービレ」に相当するのは、マクベスがバンクォーを含む8人の王の幻影を目にして取り乱す箇所であり、「中間部」は、彼が魔女たちからこの幻影が今後の王であることを教わり失神するところから意識を回復するまで、となる(同前を参照)。なお、19世紀のイタリア・オペラにおける番号曲の下位区分については、以下の70～74頁を参照。Bianconi, Lorenzo. 1993. : *Il teatro d'opera in Italia. Geografia, caratteri, storia*. Bologna: Il Mulino. これは事典項目(Bianconi, Lorenzo. 1992. : “Italy.” In *The New Grove Dictionary of Opera*, vol. 2, 837-860. London: Macmillan)に補筆したものであり、同様の記述は851～852頁に読むことができる。
- 12 すでに別稿でも説明したとおり(園田2013a: 73の注13)、ヴェルディの用意する《マクベス》改訂稿の歌詞はイタリア語である。パリ初演時にはフランス側で翻訳が行われ、フランス語の印刷台本も作成されたが、そのどちらにもヴェルディは関与していない。従ってパリ初演終了後にリコルディが1865年5月に出版した汎用印刷台本(WGV10ではR1⁶⁵と略記)が、改訂後の台本テキストの最終稿ということになる。R1⁶⁵の詳しい書誌情報は、別冊校訂報告書44頁を参照。(<http://www.urfm.braidense.it/rd/06190_13.pdf>にR1⁶⁵の全頁がオンライン公開されている)。
- 13 パリ初演時には、第10a番の末尾に第3幕第2場として新たに作曲されたバレエ3曲が置かれた。そのため、フィレンツェ初演時印刷台本で第2場だったところは第3場、というように、第3幕の「場」の番号は後ろに1つずつ繰り下げになる。

【資料 2】

フィレンツェ初演時印刷台本 (F1⁴⁷)、23～24頁 (1847年四旬節)

SCENA IV.
MACBETH (*irrivene*)

Ove son'io?... fuggirol... Oh sia ne' secoli
Maledetta quest'ora in sempiterno!
Vola il tempo, o Macbetto, e il tuo potere
Dei per opre affermar, non per chimere.
Vada in fiamme, e in polve cada
L'alta rocca di Macduff!
Figli, sposa a fil di spada:
Scorra il sangue a me fatal.
L'ira mia, la mia vendetta
Per la Scozia si diffonda,
Come fiera in cor m'abbonda
Come l'anima mi assal.

第 4 場。
マクベス (意蘆を取り戻す)

私はどこにいるのか?... 奴らは逃げた!... おお、数世紀にわたって
このひと時は永遠に呪われるがいい!
時は飛び去る、おお、マクベスよ、そしてお前の権力を
お前は企みによって守らなければならない、幻想ではなく、
炎に包まれるがいい、そして粉々に粉れてしまえ、
マクダフのそびえ立つ城塞は!
子供たちと妻は刃にかかってしまえ。
死をもたず血は私に向かって流れてこい。
私の怒りと、私の復讐は
スコットランド中に広がるがいい、
それは野獣のようにわが心のうちに満ち溢れる、
私の魂を襲うかのよう。

リコルディによる汎用印刷台本 (R1⁶⁵)、24～25頁 (1865年5月)

SCENA V. 第 5 場。
Macbeth, rinvieni, poi Lady Macbeth マクベス、意蘆を取戻し、それから伝令がマクベス夫
annunciata da un Araldo, che parte. 人を取次いで去ってゆく。

MAC. Ove son io?... fuggirol... O sia ne' secoli マクベス 私はどこにいるのか?... 奴らは逃げた!... おお、数世紀にわたって
Maledetta [sic] quest'ora in sempiterno! このひと時は永遠に呪われるがいい!
ARA. Qui giunge la regina. 伝令 王妃がいらっしゃいます。
MAC. (Chel) マクベス (なんだと!)
LADY Vi trovo 夫人 あなたを
Affin; che fate? マクベス ようやく見つけたわ。何をしてらっしゃるの?
MAC. Ancora 再び
Le streghe interrogai... 魔女たちに尋ねたのだ...
LADY E disser? 夫人 それで、何と言いました?
MAC. Da Macduff ti guarda... マクベス マクダフから身を守れ...
LADY Segui... 夫人 続けて...
MAC. Te non ucciderà nato di donna. マクベス 女から生まれたる者はお前を殺さないだろう。
LADY Segui... 夫人 続けて...
MAC. Invitto sarai finchè la selva マクベス お前は無敵であるだろう、バーナムの
Di Birna contro te non mova. 森がお前に向かって動くまでは。
LADY Segui... 夫人 続けて...
MAC. Ma pur di Banco apparvemi la stirpe... マクベス だがバンクオーの子孫も俺の前に現れた...
E regnerà!... 奴らが統治するんだ!...
LADY Menzogna!!! 夫人 嘘よ!!!
MAC. Morte, sterminio sull'iniqua razza!... マクベス 邪悪な一族に死と絶滅を!
Si, mortel di Macduff arda la ròcca, そうだ、死だ! マクダフの城塞は燃えてしまえ。
Ne peran moglie, prole... 奴の妻子は死んでしまえ...
LADY Di Banco il figlio si rinvenga, e muoia. 夫人 バンクオーの息子が戻って来て、死にますように。
MAC. Tutto il sangue si spenda a noi nemico... マクベス 我々の敵が血まみれとなるように...
LADY Or riconosco il tuo coraggio antico!... 夫人 ようやくあなたはかつての勇気を取り戻したのね!...
a 2 Ora di morte - e di vendetta, 二人で 死と - 復讐の時よ、
Tuona, rimbomba - per l'orbe intero, 雷鳴と轟音を響かせるがいい - 全世界に、
Come assordante - l'atro pensiero なんもけたましく - 陰鬱な考えが
Dei cor le fibre - tutte intronò! 心臓の血管を - 全て撃ったことが!
Ora di morte, - omai l'affretta! 死の時よ、 - さあ急げ!
Incancellabile - il fato ha scritto: 消し難く - 運命は書き記した、
L'impresa compiere - deve il delitto, 「大罪の罪を - 完遂しなければならぬ、
Poichè col sangue - s'inaugurò. それは血と共に - 始まったのだから。」

に先立つ 2 行が削除され、代わりに意識を取り戻したマクベスの傍らに、伝令とマクベス夫人が姿を現す。このように、フィレンツェ初演版にはなかった場面が接ぎ木され、バリ稿の第 11 番は、独唱ではなくマクベスとマクベス夫人の二重唱で終わるのである (本稿 90 頁【資料 2】)。

では、改訂前の台本と最終稿の違いを確認したところで、改訂の途中段階を示す資料を年代順に見ていこう。

現存するものの中で最初に記されたと推測されているのは、ヴェルディによるメモ書きの「マクベスの台本に付加するべき詩行」である (本稿 91 頁【資料 3】¹⁴)。先ほど、まさに【資料 1】 (本稿 89 頁) と【資料 2】 (本稿 90 頁) として挙げた箇所 (後者については途中まで) が、1 枚の紙に書かれている。これはヴェルディがピアージェのために書いた推薦状の下書きの裏面を再利用したもので¹⁵、二人の仕事を超えた付き合いを彷彿させる¹⁶。

14 非常に不鮮明な写真による複製が Rosen and Porter, eds. 1984: 339 に掲載されている。写真に添えられた解説によれば、オリジナルはサンタガタのヴィッラ・ヴェルディにあるヴェルディの遺族が管理する私設図書館に収蔵。なおヴェルディはこのメモにおいても、次に掲載する【資料 4】 (本稿 93 頁) においても、新しい 3 曲のバレエの挿入によって台本の「場」の番号が 1 つずつ繰り下げになることを忘れていたか、あるいはそのことをまだよく自覚していなかったと思われる。本稿脚注 13 を参照。

15 Rosen and Porter, eds. 1984: 339.

16 周知のとおり、当時のヴェルディは国会議員だった。《マクベス》改訂に関わる書簡の中には、下院のレターヘッドの入った紙に書かれたものもある (Ibid.: 118 に掲載されている、ヴェルディによるエスキュディエ宛書簡を参照 [トリノ発、1865 年 4 月 19 日付])。

【資料3】ヴェルディによるメモ書き「マクベスの台本に付加すべき詩行」

(サンタガタ、1865年1月)

Versi da aggiungere al libretto del Macbet

マクベスの台本に付加すべき詩行

atto III

第3幕

Scena II

第2場

Mac. Sull'ingresso parlando ad alcuni
Finchè appelli, silenti m'attendete.
S'avanza
Che fate misteriose donne?
et. et.

マクベス 入り口で数人に話しかけながら
声をかけるまで、黙って私のことを待っておれ。
進み出て
お前たちは何をしているのか、神秘的な女たちよ。
などなど

Scena III Dopo il Coro Sifidi

第3場 大気の精霊たちの合唱後

Mac. ove son io? fuggiro!.. Oh sia ne' secoli
Maledetta quest'ora in sempiterno!

マクベス 私はどこにいるのか?... 奴らは逃げた!.. おお、数世紀にわたって
このひと時が永遠に呪われるがいい!

Scena IV

第4場

Lenosse sulla soglia
La Regina!
Qui giunge la Regina!

レノックス 入り口で
妃殿下
王妃がいらっしやいます!

Mac. Che!

マクベス なんだと!

Lady Mac. entrando Vi trovo

マクベス夫人 入ってきつつ あなたを

alfin! che fate?

ようやく見つけたわ! 何をしてらっしゃるの?

Mac. Ancora

マクベス 再び

Le streghe interrogai...

魔女たちに尋ねたのだ...

ピアージェはこのメモ書きの詩行を、ほぼそのまま、改訂作業用の印刷台本（WGVI0ではI-BUcarrara(I)と略記）に書き込んだ¹⁷。パリ初演のための台本改訂作業が円滑に進むように、リコルディはヴェルディとピアージェのために途中で白紙を差し挟んだ特製の印刷台本をわざわざ準備した¹⁸。今日、メモ書きの詩行と共にサンタガタに保管されているこの印刷台本は、第11a番の改訂に本腰を入れ始めた1865年の年頭にはヴェルディの手許に届いていたものと思われる¹⁹。ピアージェは1865年1月6日～13日頃にサンタガタを訪問し、第

17 非常に不鮮明ではあるが、Rosen and Porter, eds. 1984: 340に【資料4】(本稿93頁)と【資料5】(本稿94頁)のオリジナルの写真複製がある。

18 印刷されているテキストは、リコルディによるフィレンツェ初演版のための汎用印刷台本である。WGVI0の別冊校訂報告書42-43頁を参照。

19 I-BUcarrara(I)の14頁と15頁の間に差し挟まれた白紙の表には、ヴェルディの筆跡で第7番のための新しい歌詞が書き込まれている。そのテキストは正書法と句読点の使用法にわずかな違いがあるものの、パリ初演用自筆総譜(WGVI0ではA/65と略記)に記された歌詞とも、RI⁶⁵のテキストとも一致する(園田2013a: 87の注46を参照)。新しい歌詞のうち、第7番については完成稿しか記入されなかったのは、この特製印刷台本が、第7a番の改訂を終えてから彼の手許に届いたためではないか。ヴェルディが第1幕と、第7a番を含む第2幕を改訂し、パリ初演用に総譜を整え、写しを取らせるためそれをリコルディに送付したのは、1865年1月5日のことである。Rosen and Porter, eds. 1984: 84を参照。

11a 番のための新しい詩行をヴェルディと一緒に構想した²⁰。【資料4】(本稿93頁)は、彼が **I-BUcarrara(I)** の24頁と25頁の間に差し挟まれた白紙の裏面と25頁の余白に書き込んだ詩行である。斜体ではなく正体で記したマクベスの最初の歌詞2行は、25頁に印刷されている元の詩行をそのまま生かすところである。一方の斜体部分は、新しい詩行であることを意味する。なお下線による強調は、原本にあるままとした²¹。

17行の無韻詩による対話と、二重唱のための二通りの歌詞である。1つ目の「復讐の、死に至る時よ Fatal ora di vendetta」は、8音節詩行の四行詩節が2つからなっている。それに対して、2つ目の「恐ろしい時よ Terribil ora」は、二重5音節詩行の四行詩節2つからなる。

注目すべきは、最終稿 **RI**⁶⁵ のテキスト(本稿90頁、【資料2】の右)とは異なって、意識を取り戻したマクベスに最初に話しかける人物が、伝令ではなくレノックスになっている、ということである。台本全体を通して台詞が1行しかない役柄に名前を与えても意味がないので、最終稿ではレノックスは伝令に変更されたものと思われるが、ここでレノックスが登場するのは、ヴェルディとピアヴェがシェイクスピアの原作に立ち返って改訂案を練ったことを示している。とはいえ、その直後にマクベス夫人が登場するのは、全くの創作である²²。幕切れにマクベスの独唱よりもさらに強力な何かを用意することがこの番号曲の改訂の眼目であるならば、合唱による幕切れが筋書きの上で不可能である以上、カバレッタ的性格を持つ重唱と差し替えるのが現実的な解決策であろう。そしてその重唱は、当然ながら主要登場人物によって歌われるものでなければならぬから、マクベス夫人にここで再び参加してもらうより、他に選択肢はないのである。独唱による幕切れを避けることが、バリ側の意向に対する過剰反応なのか、それとも作曲家本人の内発的意思によるものなのかは不明だが²³、原作に登場しない箇所までこうして夫人が現れて夫を鼓舞することになれば、夫人の存在感はいやがうえにも増すことになる。

ヴェルディは、この新しい歌詞に基づいて作曲を始めた。17行の無韻詩による対話部分はそのまま作曲したが、肝心の二重唱については、2通り準備していた歌詞のうち、二重5音節詩行の方を採用することにしたものの、その出来については納得できなかった。自分で推敲した歌詞をひとまず最初の4行分のみ特製印刷台本に書き込んだ上で(本稿94頁、【資料5】²⁴)、ヴェルディはピアヴェに手紙をしたためた(本稿94頁、【資料6】²⁵)。

ヴェルディの言うとおりの、ピアヴェの書いた2つ目の歌詞の3行目「お前の考えと同じよ

20 **WGV10** の序文 xxi 頁および lvii 頁を参照。後述のとおり、ピアヴェは1865年1月24日にサンタガタを再訪する。本稿98頁参照。

21 これらの表記法は、**WGV10** の別冊校訂報告書200-201頁に復刻されているテキストに倣った。

22 シェイクスピア『マクベス』第4幕第1場では、魔女たちが踊って消えた後、マクベスの許にレノックスが現れる。レノックスからマクダフのイングランド逃亡を知ったマクベスは、ならばマクダフの城に奇襲をかけ妻子と一族郎党を皆殺しにするまで、と息巻いて退場する。

23 園田2013a: 74の注15を参照。

24 【資料4】(本稿93頁)と同様に、表記法は**WGV10** の別冊校訂報告書200-201頁に復刻されているテキストに倣う。

25 Rosen and Porter, eds. 1984: 85-86より転載。

【資料 4】I-Bucarrara(I) にピアールヴェが記した新しい詩行

(サンタガタ、1865年1月中旬 [13日頃])

SCENA IV.

MACBETH, rinviene, poi Lenosse che, annunciata la Regina, riparte

Mac. Ove son io?... fuggiro!.. Oh sia ne' secoli
Maledetta quest'ora in sempiterno!

Len. Qui giunge la regina.

Mac. (Che!)

Lad. (entrando) Vi trovo
Alfin; che fate?

Mac. Ancora
Le streghe interrogai...

Lad. E disser?

Mac. Da Macduff ti guarda.

Lad. Segui...

Mac. Te non ucciderà nato di donna...

Lad. Segui.

Mac. Invitto sarai finché la selva

Di Birna contro te non mova.

Lad. Segui...

Mac. Ma pur di Banco apparvemi la stirpe...
E regnerà!...

Lad. Menzogna!!...
Morte, sterminio sull'iniqua razza!...

Mac. Sì, morte!.. di Macduffo arda la rocca....
Ne peran moglie, prole...

Lad. Di Banco il figlio si rinvenga e muoia.

Mac. Tutto il sangue si sperda a noi nemico

Lad. Or riconosco il tuo coraggio antico.

a 2 Fatal ora di vendetta
Tuona omai per l'orbe intero,
Truce come il tuo pensiero
Che nel cor ne divampò.
Fatal ora, giungi, affretta,
Il Destino l'ha prescritto...
Compil l'opra dee il delitto
Che il delitto inauguro.

[p. 25]

oppure:

a 2 Terribil ora – della vendetta
Suona, rimbomba – per l'orbe intero,
Tremenda al pari – del tuo pensiero,
Che assiduo l'anima – ne conturbò.
Terribil ora – omai t'affretta!..
Incancellabile – il fato ha scritto:
L'impresa compiersi – dee dal delitto,
Poiché dal sangue s'inauguro.

fine dell'atto Terzo.

第 4 場。

マクベス、意識を取り戻す、そしてレノックス、彼は王妃を取り次いで、再び発つ

マクベス 私はどこにいるのか?... 奴らは逃げた!... おお、数世紀にわたってこのひと時が永遠に呪われるがいい!

レノックス 王妃がいらいっしやいます。

マクベス (なんだ?)

夫人 (入ってきつ) あなたを
ようやく見つけたわ。何をしてらっしゃるの?

マクベス 再び

魔女たちに尋ねたのだ...

夫人 それで、何と言いました?

マクベス マクダフから身を守れ。

夫人 続けて...

マクベス 女から生まれた者はお前を殺さないだろう...

夫人 続けて。

マクベス お前は無敵であるだろう、バーナムの

森がお前に向かって動くまでは。

夫人 続けて...

マクベス だがバンクオーの子孫も俺の前に現れた...

奴らが統治するんだ!...

夫人 嘘よ!!!...

邪悪な一族に死と絶滅を!

マクベス そうだ、死だ!... マクダフの城塞は燃えてしまえ...

奴の妻子は死んでしまえ...

夫人 バンクオーの息子が見つかって死にますように。

マクベス 我々の敵が血まみれとなるように

夫人 ようやくあなたはかつての勇気を取り戻したのね。

二人で 復讐の、死に至る時よ

今や全世界に雷鳴を響きわたらせよ、

お前の考えのように獐猛に、

それは私たちの心の中に燃えあがった。

死に至る時よ、来るがいい、急げ、

運命はこう規定した...

「企みは犯罪を完遂しなければならぬ

犯罪がそれを始めたのだから。」

あるいは:

二人で 恐ろしい — 復讐の時よ

雷鳴と轟音を響かせるがいい — 全世界に、

お前の考えと — 同じように恐ろしく、

それは私たちの魂を — 常に責めさいなんだ。

恐ろしい時よ — さあ急げ!...

消し難く — 運命は書き記した、

「大望は犯罪で — 完遂されなければならない、

それは血によって始まったのだから。」

第 3 幕の終わり。

【資料5】 ピアーヴェによる I-BUcarrara(I) 25頁の二重5音節詩行の右上に
ヴェルディが書き込んだ代案 (サンタガタ、1865年1月13日より後)

[p. 25]

Ora di morte e di vendetta

Tuona rimbomba per l'orbe intero

Come assordante l'aspro pensiero

Del cor le fibre tutte intronò.

死と復讐の時よ

全世界に雷鳴と轟音を響かせるがいい

過酷な考えが、なんとけたたましく

心臓の全ての血管を撃ったことか。

【資料6】 ヴェルディによるピアーヴェ宛の書簡
(サンタガタ、1865年1月中旬 [13日より後])

Nelle strofe del Duetto finale Macbet non sono ben chiari i due ultimi versi della prima quartina *Tremenda al pari / del tuo pensiero... chi tuo?* Mi pare che servendosi del pensiero e delle stesse parole di Shakespeare sia più chiaro. Così:

マクベスの二重唱フィナーレの詩節の中で、1つ目の四行詩節の最後の2行、「お前の考えと／同じように恐ろしく...」がよくわからない。「お前の」ってのは誰だね？ シェイクスピアの考えと彼自身の言葉を使えば、もっと明瞭になると思うよ。こんな風に

Ora di morte – e di vendetta
Tuona rimbomba – per l'orbe intero
Come assordante – l'aspro pensiero
Del cor le fibre – tutte intronò

死と — 復讐の時よ、
雷鳴と轟音を響かせるがいい — 全世界に
なんとけたたましく — 過酷な考えが
心臓の血管を — 全て撃ったことか

Ora di morte – ormai t'affretta...
Incancellabile il fato ha scritto:
L'impresa compiere deve il delitto
Se dal delitto s'inagurò.

死の時よ — さあ急げ...
消し難く運命は書き記した、
「大望は犯罪を完遂しなければならぬ、
それが犯罪によって始まったのならば。」

Rispondi se così va e se no correggi. 'Ora di morte' è meglio per musica...
これで大丈夫か返事を頼む。駄目なら直してくれ。「死の時よ」の方が音楽には都合がいいんだ...

うに *al pari del tuo pensiero*」の「お前の tuo」が何を指しているのかは、今一つ判然としない。また“*Terribil ora*”ではなく“*Ora di morte*”で歌い始めたかったことは、出来上がった二重唱の歌い出しを見れば自ずと得心がゆく。同じ5音節でも、前者のリズム「弱強弱強弱」が、付点二分音符で始まる二重唱の歌い出しに全く合わないことは明らかである（拍子記号は♩）²⁶。

先行研究が指摘するとおり²⁷、ヴェルディとピアーヴェは、1847年のフィレンツェ初演版の時と同じように、カルロ・ルスコーニ Carlo Rusconi (1812～1889) によるシェイクスピアのイタリア語散文訳『マクベス』(1838)を参照しながら新しい歌詞を考えている。ルスコーニ訳の第4幕第1場には、「復讐の時が全世界に鳴り響くがよい、なんとけたたましく、わが心

26 WGV10, N. 11, mm. 516-517 を参照。ヴェルディの代案は「強弱弱強弱」である。

27 Rosen and Porter, eds. 1984: 85-86.

臓のあらゆる血管を撃つことか。復讐だ、復讐だ！ Ora della vendetta rimbombi per l'universo, come assordante m'introni ogni fibra del cuore... Vendetta, vendetta!...」という一節があり²⁸、【資料4】（本稿93頁）においても、2通りの二重唱の歌詞には「復讐の時 ora di vendetta」、「響かせるがいい rimbomba」、「全世界に per l'orbe intero」という表現が見られるからである。ヴェルディによる代案では、3行目前半に「なんとけたたましく Come assordante」、4行目に「心臓の全ての血管を撃ったことか Del cor le fibre tutte intronò」がさらに加わることによって、ルスコーニの訳文からの一層徹底した借用が行われている²⁹。

その一方で、よく観察してみると、ヴェルディはピアールヴェと一緒に考えた詩行の行末の単語をなるべく変えないように注意していることがわかる³⁰。単語を変えることで、脚韻にまで変化が及ぶのを避けたいからだろう。歌詞の詩形を重んじる、彼らしいやり方である³¹。

このヴェルディの手紙に対するピアールヴェの返信は、残念ながら現存しない。ここでは、ヴェルディが最終的にどのような歌詞を自筆総譜（A/65）に書き入れたのかを確認しておく（本稿95頁【資料7】³²）。

【資料7】ヴェルディが自筆総譜（A/65）に書き入れた二重唱の歌詞

（1865年1月21日以前）

Ora di morte e di vendetta,
tuona, rimbomba per l'orbe intero,
come assordante l'atro pensiero
del cor le fibre tutte intronò!

Ora di morte, omai l'affretta!
Incancellabile il fato ha scritto!
l'impresa compier deve il delitto,
poiché dal sangue s'inaugurò.

死と復讐の時よ、
雷鳴と轟音を全世界に響かせるがいい、
なんとけたたましく、陰鬱な考えが
心臓の全ての血管を撃ったことか！

死の時よ、さあ急げ！
消し難く運命は書き記した、
大望は犯罪を完遂しなければならない、
それは血によって始まったのだから。

28 マクベスの台詞。Shakespeare 1838（本稿注10参照）の第1巻17頁。これは原作の第4幕第1場168-169行（“No boasting like a fool, / This deed I'll do, before this purpose cool;”）に相当するべき箇所だが、見てのとおり忠実な翻訳とは言えないもので、それがためにかえって彼らがルスコーニ訳を参照していたことが、今日では確実視されている。

29 なお、歌詞7～8行目については、同じくルスコーニ訳の第3幕第2場にあるマクベスの台詞“le imprese incominciate col delitto, mestieri è pure che fra i delitti si compiano.”との関わりが指摘されている。Rosen and Porter, eds. 1984: 86の脚注2を参照。これは原作の第3幕第2場58行目“Things bad begun make strong themselves by ill”に相当する。第7a番改訂時には、ヴェルディはその直前の箇所から新しい歌詞を作成した。詳細は園田2013a: 78-79を参照。

30 4行目のみ“conturbò”から“intronò”に変更されているが、脚韻は同一に保たれている。

31 以下の拙文の87頁を参照。園田みどり2013b:「19世紀イタリア・オペラの台本と楽譜の言語テキストをめぐる文献学的な諸問題——ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ《ラ・トラヴィアータ》を例として」『武蔵野音楽大学研究紀要』第45号: 71-88。


32 WGV10, N. 11より転記する（WGV10はA/65を底本とし、他資料との異同は逐一別冊校訂報告書に報告する）。なお当該部分成立の下限となる日時は、第3幕の総譜を整え、写しを取らせるためにそれをリコルディに送付した1865年1月21日である。Rosen and Porter, eds. 1984: 88を参照。

基本的にピアヴェに手紙で送った代案が自筆総譜の歌詞となったが、二重下線で強調した3箇所で見られる。まず3行目が“aspro”ではなく“atro”に変更されたのは、様々な意味に解釈できる形容詞を嫌ったためであろうか。“aspro”には「過酷な」、「厳しい」の他に、果物などが「まだ熟していない」（そのために酸っぱい）という意味もあるので、とりわけ「考え pensiero」と組み合わせた場合には、そのどちらとも取れる表現になる³³。あるいは、歌いやすさの問題かもしれない。“Allegro assai agitato ♩ = 160”の表示を持つこの二重唱において、“aspro”の二音節目“-spro”の三重子音は、どうしても早口言葉のようになってしまう³⁴。7行目の“compier”は、“compiere”の最後の母音を落とした形であり、こうすることで7行目の前半の5音節詩行が名実ともに5音節となって³⁵、詩行の他の場所と実際の音節数が揃うことになり、基本的に5つの音符からなるこの二重唱の旋律動機とぴったり合致するようになる³⁶。最後の行の前半については、ヴェルディはピアヴェと相談して作成した詩句に戻し、“poiché dal sangue”とした。当該部分の旋律が、歌詞の2音節目と4音節目にアクセントを求めているために、4音節目のみが強い“Se dal delitto”よりも都合が良かったのだろう³⁷。なお、WGV10の別冊校訂報告書によれば、ヴェルディは後日リコルディが出版した汎用印刷台本(RI⁶⁵)と同じように(本稿90頁【資料2】参照)、“poiché col sangue”と自筆総譜に書き込んでいたが、途中から“col”を“dal”に改めることにし、すでに書き込んでしまったところは訂正した³⁸。この変更がRI⁶⁵に反映されなかった理由はわからない。いずれにせよ、“dal”に変更すれば、直前の“-ché”にある子音“c”の繰り返しを避けることになる。

(3) 第4幕、シェーナ、戦闘、マクベスの死〔第15a番〕の改訂

冒頭でも述べたとおり、最終場面「マクベスの死」を合唱曲に変更することは、パリ初演の条件だった。当然ながら、第14番で夢遊していたマクベス夫人に、ここで再び登場してもらうわけにはいかない。一方のマクベスは、オペラの幕切れまでに必ず死んだことになっている必要があるから、合唱が始まる前にはすでに討ち果たされていなければならない。そのようなわけで、最後の合唱曲は、主要登場人物がいなくなった状態で、脇役たちが「勝利の讃歌

33 【資料5】(本稿94頁)と【資料6】(本稿94頁)の対訳では、前者の意味で訳した。

34 WGV10, N. 11, mm. 521-522. 旋律は  となっている。
la - tro pen-sie - ro

35 “l’impresa compiere”であれば、この箇所は“l’im-”“-pre-”“-sa”“-com-”“-pie-”“-re”の6音節になるが、詩作法の上では最後の“-re”は勘定に入れないので、5音節詩行である。なお、RI⁶⁵では“compiere”になっている(本稿90頁【資料2】参照)。

36 WGV10, N. 11, mm. 540-541.

37 *Ibid.*, mm. 542-550.

38 WGV10の別冊校訂報告書204頁を参照。訂正しそびれたところもある(m. 545のマクベス夫人の歌詞)。

【資料 8】

フィレンツェ初演時印刷台本 (F1⁴⁷)、29～30頁 (1847年四旬節)

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SCENA IX. MACBETH incalzato da MACDUFF.</p> <p>Macd. T'ho giunto alfin carnefice De' figli miei!</p> <p>Mac. Fatato Son' io! non puoi trafiggermi, Tu d'una donna nato.</p> <p>Macd. Nato io non son, ma tolto Fui dal materno sen.</p> <p>Mac. Misero me! che ascolto! Ah! tu mi resti almen! (brandendo la spada) (combattono, Macbeth cade)</p> <p>SCENA ULTIMA. I precedenti. MALCOLM seguito da soldati inglesi, i quali si trascinano dietro prigionieri quelli di Macbeth.</p> <p>Mal. Vittoria!... ove s'è fitto L'usurpator?</p> <p>Macd. (accennando Mac.) Traffitto! Mac. (alzandosi a stento da terra) Mal per me che m'affidai Ne' presagi dell'Inferno!... Tutto il sangue ch'io versai Grida in faccia dell'Etemo!... Sulla fronte... maledetta... Sfolorò... la sua vendetta!... Muojò... al Cielo... al mondo in ira, Vii coronat!... e sol per te! (muore)</p> <p>Macd. Scozia afflitta, ormai respira! Tutti Or Malcolmo è il nostro Re.</p> | <p>第 9 場。 マクベス、マクダフに追い立てられて。</p> <p>マクダフ ついに息子たちを殺したお前のところに、 やってきたぞ!</p> <p>マクベス 俺は予言を 受けたんだ! 俺を刺し殺すことはできない、 女から生まれたお前は。</p> <p>マクダフ 生まれたんじゃない、母の胎から 取り出されたんだ。</p> <p>マクベス 不幸な! 何ということを知りたいんだ! ああ! せめてお前は俺の手許に! (剣を振り回しつつ) (彼らは戦い、マクベスが倒れる)</p> <p>最終場。 上述の人々、マルカムはイングランド兵を従えてい る。彼らは彼らに捕虜としたマクベスの兵士たちを 連れて行く。</p> <p>マルカム 勝利だ!... どこで仕留められたんだ、 王位篡奪者は?</p> <p>マクダフ (マクベスを指しながら) 深手を負っておりませ う! マクベス (かろうじて地面から身をもたげて) 失敗だった、地獄の 予言を頼りにしたのは!... 俺の流した全ての血が 神の目前で叫んでいる!... そのいまいまいし!... 御前で 血の復讐が... 舞いた!... 俺は死ぬ... 天に... 吾に憎まれて、 邪悪な王冠よ!... ただお前のため! (死ぬ)</p> <p>マクダフ 告げられたスコットランドよ、ようやく生き返る! 全員 今や、マルカムが我らの王。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

リコルディによる汎用印刷台本 (R1⁶⁵)、30～32頁 (1865年5月)

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SCENA IX. Macbeth incalzato da Macduff.</p> <p>MACD. Carnefice de' figli miei, t'ho giunto. MAC. Fuggi; nato di donna Uccidermi non può.</p> <p>MACD. Nato non sono: Strappato fui dal sen materno.</p> <p>MAC. (spaventato) Cielo! (brandiscono le spade e disperatamente battendosi, escono di vista)</p> <p>SCENA X. Entrano Donne Scozzesi come nel principio dell'atto. La battaglia continua.</p> <p>DONNE Infausto giorno!... ovunque sangue, morte! Pregiam per figli nostri!... Cessa il fragor!</p> <p>VOCI INTERNE Vittoria!... DONNE (con gioia) Vittoria!...</p> <p>SCENA ULTIMA. Malcolm seguito da Soldati inglesi, i quali trascinano prigionieri quelli di Macbeth, Macduff con altri Soldati, Bardi e Popolo.</p> <p>MAL. Ove s'è fitto L'usurpator?</p> <p>MACD. Colà da me trafitto. TUTTI (piegando un ginocchio a terra) Salve, o Re! (i Bardi s'avanzano ed intonano l'Inno)</p> <p>BAR. Macbeth, Macbeth ov'è?... Dov'è l'usurpator?... D'un soffio il fulminò Il Dio della vittoria. (poi volti a Macduff) L'eroe valente egli è Che spense il traditor. La patria, il Re salvò; A lui onore e gloria!</p> <p>SOL. Ah sì, l'eroe egli è Che spense il traditor; La patria e il Re salvò; A lui onore e gloria!</p> <p>DONNE Salgano grazie a te, Gran Dio vendicator; A chi ne liberò Inni cantiam di gloria.</p> <p>MAL. Confida, o Scozia, in me! È spento l'oppressor; La gioia eternerà Tra noi di tal vittoria!</p> <p>MAC. Ciascun si fidi al Re, Che il ciel ne rende ancor! L'aurora che spuntò Ne reca pace e gloria!</p> | <p>第 9 場。 マクベス、マクダフに追い立てられて。</p> <p>マクダフ 息子たちの殺人者よ、お前に追いついた。 マクベス 立ち去れ。女から生まれた者は 俺を殺すことはできない。</p> <p>マクダフ 生まれたんじゃない。 母の胎を裂いたのだ。</p> <p>マクベス (驚いて) なんだ! (彼らは剣を振り回し、絶望的に戦いなが ら視界から消える)</p> <p>第 10 場。 第 4 幕第 9 場と同様、スコットランドの女たちが入場 する。戦いは続く。</p> <p>女たち 不吉な日!... どこもかしこも血と死体だわ! 息子たちのために祈りましょう!... 騒ぎが静まってきわ!</p> <p>袖からの声 勝利だ!... 女たち (喜んで) 勝利ですって!...</p> <p>最終場。 マルカムはイングランド兵を従えている。彼らは捕 虜としたマクベスの兵士たちを連れて行く。他の兵 士たち、吟遊詩人たち、領民と共にマクダフ。</p> <p>マルカム どこで仕留められたんだ、 王位篡奪者は?</p> <p>マクダフ あちらで私が倒れました。 全員 (大地に跪いて) 万歳、お国王よ! (吟遊詩人たちが歩み出て、讃歌を歌う)</p> <p>吟遊詩人 マクベス、マクベスはどこだ?... 王位篡奪者はどこだ?... 勝利の神は彼を息で 打ち負かした。(マクダフに向かって) 勇敢な英雄だ、 裏切り者を殺した彼は。 祖国を、国王を救った。 彼に名誉と栄光を!</p> <p>兵士たち ああ、そのとおりだ、彼は英雄だ 裏切り者を殺した彼は。 祖国と国王を救った。 彼に名誉と栄光を!</p> <p>女たち 感謝の気持ちがあなたの許へと届きますように、 復讐する偉大な神よ。 私たちを解放してくださいました方に 栄光の讃歌を歌いましょう。 マルカム おおスコットランドよ、私を信じなさい! 暴君は死んだ。 私はこのような勝利の喜びを 私たちの間で永遠のものとするだろう! マクダフ それぞれが国王を信じますように、 天が再び私たちに返してくれた国王を! 姿を現した神が 私たちに平安と栄光をもたらしてくれますよう!</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

「Inno di vittoria」を歌うという構想で作曲された。

初めに、新旧台本の相違点を確認しておこう (本稿 97 頁【資料 8】)。第 4 幕第 9 場でマクベスとマクダフの決闘が繰り返されるのは同じだが、旧台本の最終場でマクベスが歌舞伎役者さながらにひとしきり見栄を切って死ぬのに対して³⁹、新台本ではマクベスはマクダフと共に観客の視界から消えてゆき、代わりに第 10 場でスコットランドの女たちが入場する。そして最終場で新たに男声合唱 (兵士、捕虜、吟遊詩人、領民) とマルカムが加わり、戻ってきた

39 主役の見せ場の一つである。ヴェルディはフィレンツェ初演に先立って、マクベス役のパリトン歌手フェリーチェ・ヴァレージ Felice Varesi (1813 ~ 1889) に、この箇所について演技指導を兼ねた書簡をしたためている。書簡の全文は、園田 2012: 45 に読むことができる。

【資料 9】 I-BUcarrara(I) にピアーヴェが記した新しい詩行

(サンタガタ、1865年1月24日)

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (Brandisce la spada, e disperatamente battendosi con Macduff, escono di vista) | 〔マクベスは〕 剣を振り回し、絶望的になってマクダフと戦う。 彼らは視界から出てゆく) |
| MAL. Vittoria! | マルカム 勝利だ! |
| Coro Vittoria!! | 合唱 勝利だ!! |
| MAL. Ove si cela l'infame usurpator?... | マルカム どこに隠れているのか、 悪辣な王位篡奪者は?... |
| MAC. Colà spirò di mano mia trafitto. | マクダフ あちらで、わが手にかかって息絶えました。 |
| TUTTI (piegando il ginocchio intorno Malcolm) | 全員 (マルカムの周囲に跪いて) |
| Salve, o rè!!! | 万歳、おお、国王よ!!! |
| MAL. Il ciel puniva il suo delitto. | マルカム 天が彼の罪を罰したのだ。 |
| Tutti Patria esulta, caduto è il tiranno, che segnava i tuoi di col terror! Muta affine in letizia l'affanno, È Malcolm di Scozia signor! Oricalchi guerrieri annunciate Ch'è redenta chi schiava penò, Che de' sgherri le turbe esegrate la giustizia di Dio fulminò. A te salga, o Dator di vittoria D'ogni core l'omaggio fedell... A te onore, a te laude, a te gloria Che n'hai salvi da tanto flagell! | 全員 祖国よ、歓喜せよ、暴君は倒れた。 彼はお前たちの日々を恐怖で汚していた! ついに苦しみは喜びに転じて、 マルカムがスコットランドの主だ! 戦鬨の喇叭よ、告げるがいい、 隷属して苦しんでいた国が解放されたことを、 傭兵たちの邪悪な群れを 神の正義が稲妻で撃ち殺したことを。 あなたに届きますよう、おお、勝利を下さった方よ、 皆の心からの臣下としての敬意が!... 名誉、賛歌、栄光がもたらされますように、 多くの災難から我々を救ったあなたに! |
| Sant'Agata 24 gennaio 1864 [recte 1865] | サンタガタ、1864 [正しくは 1865] 年、1月 24 日 |

マクダフも参加して、全員による「勝利の讃歌」が歌われる。旧台本において、シェイクスピアの原作から離れたオペラ独自の幕切れになっていたところが、改訂によって図らずも原作に近づく結果になった、とも言えるだろう⁴⁰。

ヴェルディは1864年12月2日付の書簡で、最終場面の合唱曲が「勝利の讃歌」になる見通しであることをすでに先方に伝えていたが⁴¹、第15a番の新しい歌詞について具体的に考え始めたのは、第3幕の改訂が終わった1865年1月21日以降のことと思われる⁴²。現存する資料の中で、改訂された歌詞の最初の読みを伝えているのは、先にも言及した改訂作業用の特製印刷台本 I-BUcarrara(I) にピアーヴェが書き込んだ詩行である。本人が記しており、ピアーヴェは1865年1月24日に再びサンタガタのヴェルディの許を訪ねたのである

40 原作では、二人は戦いながら一旦退場し、戦鬨の音とともに再び現れて、マクベスはマクダフに討たれる。マクダフは亡骸を引きずって退場、マルカム軍が入場する。そこにマクベスの首を持ったマクダフが登場し、皆で新しいスコットランド王マルカムを称える。なおルスコニ訳では、マクベスは舞台上では殺害されない。二人は戦いながら退場し、退却の太鼓に続いてマルカム軍が入場する。そしてマクダフがマクベスの首を槍先に掲げて現れるのを見て初めて、観客はマクベスの死を知ることになる (Shakespeare 1838: 24-25)。

41 ブッセート発、エスキューディエ宛の書簡。Rosen and Porter, eds. 1984: 75 を参照。

42 本稿 95 頁注 32 を参照。

(本稿 98 頁【資料 9】⁴³)。

ピアージェが書き直したのは、旧台本の第 9 場の最後にあったト書きから先の部分である。一対一の勝負をする二人が視界から消えてゆき、代わりにマルカムと合唱が登場する。マクダフがマクベスを倒したことを報告すると、全員が跪いて新国王を称賛する。一方の新国王マルカムは、天が彼を罰したと述べる。ここまでが無韻詩で、その後の全員による「勝利の讃歌」は、10 音節詩行による 3 つの四行詩節となっている。

10 音節詩行による合唱曲といえば、《マクベス》のフィレンツェ初演版を準備していた 1846 年当時にも問題になったことがある。ヴェルディは第 4 幕冒頭の難民たちの合唱について、ピアージェから送られてきた詩行では短すぎて壮大な感じにならないと嘆き、8 音節詩行による 4 つの詩節に書き換えるよう促している。「《ナブッコ》の合唱曲のような重要なものにしたけれど、同じような調子にたくないから、8 音節詩行でお願いしたい。Io vorrei fare un Coro dell'importanza di quello del *Nabucco*: non vorrei adoperare però lo stesso andamento ed è perciò che ti prego dei versi ottonarij.⁴⁴」このヴェルディの要望に沿って、難民たちの合唱〈抑圧された母国よ！ Patria oppressa!〉の歌詞は 8 音節詩行になった。一方《ナブッコ（ナブッコドノゾル *Nabucodonosor*）》（1842）の合唱曲とは、言うまでもなく〈行け、思いよ Va pensiero〉のことを指しており、その歌詞は 10 音節詩行で書かれている。今回の改訂で必要となった「勝利の讃歌」も愛国的な内容の合唱曲であるから、それがためにここで 10 音節詩行が選ばれたものと思われるが⁴⁵、結局ヴェルディはピアージェの考えた詩行が気に入らず、妻ジュゼッピーナ・ストレッポーニ Giuseppina Streponi（1815～1897）と共に早急に代案を練り始めた。

【資料 10】（本稿 101 頁）は、ヴェルディとジュゼッピーナ両人の筆跡による、「勝利の讃歌」のための詩行スケッチである⁴⁶。1865 年 1 月 22 日付でサンタガタから発送された、ヴェルディによるティト・リコルディ宛の書簡の下書き用紙に記されている。この段階ですでに、最終稿 **RI**⁶⁵（本稿 97 頁【資料 8】の右）と同じように、7 音節詩行による四行詩節の形になっているが、詩節の数は 6 つではなく 8 つあり、中には重複しているものもある。

このような試行錯誤を経て、ヴェルディはピアージェが数日前に **I-BUcarrara(I)** に記した詩

43 最後の日付を参照。本稿では Rosen and Porter, eds. 1984: 341 にある復刻テキストを使用する。同 340 頁左下には不鮮明ではあるが写真による複製も掲載されている。記入位置についての書誌学的詳細については、**WGV10** の別冊校訂報告書 43 頁を参照。

44 ミラノ発、1846 年 12 月 22 日付、ヴェルディによるピアージェ宛の書簡（Rosen and Porter, eds. 1984: 26）より引用。

45 上記書簡に付された脚注 3 が指摘するとおり（*Ibid.*: 27）、愛国的な内容を持ち、歌詞が 10 音節詩行で書かれているヴェルディの合唱曲には、《ナブッコ》（1842 年 3 月 9 日、ミラノ初演）の〈行け、思いよ〉の他にも、《イ・ロンバルディ *I Lombardi*》（1843 年 2 月 11 日、ミラノ初演）の〈おお主よ、故郷の家から O Signore, dal tetto natio〉や《エルナーニ *Ernani*》（1844 年 3 月 9 日、ヴェネツィア初演）の〈カスティリアの獅子が目覚めんことを Si ridesti il Leon di Castiglia〉がある。

46 Rosen and Porter, eds. 1984: 342-345 に、非常に不鮮明な写真複製と一緒に掲載されている、復刻されたテキストに基づく。本稿ではレイアウトを変更し、ジュゼッピーナ（G と略記）の筆跡は斜体、ヴェルディ（V と略記）の筆跡は立体とした。また各々の詩節について、一番最初に記された詩行をボールド体で表し、その後の訂正は通常の手書きとする。V あるいは G の後に記された数字は、訂正の階層を示す。

行の上に大きく×を入れ、かわりに自分たちで考えた新しい詩行を書き込んだ⁴⁷。そして、どうして1月24日に考えた詩行ではダメなのか、どんな詩行にしたいのかをピアージェに説明し、併せて新しい詩行の推敲も依頼する手紙を1月28日付で送付した（本稿102頁【資料11】）⁴⁸。

【資料10】（本稿101頁）と【資料11】（本稿102頁）を比較してみると、前者の第3詩節は吟遊詩人たちの第1詩節と同じなので、後者では省略されていることがわかる。前者の第6詩節は、後者では兵士たちの歌詞となり、女声合唱の前に配置された。なお【資料10】においては、マルカムの詩行がまだ不完全であり、マクダフの詩行に至っては全く形を成していないので、【資料10】以外にも今日知られていない詩行スケッチがあったのかもしれない。

【資料11】（本稿102頁）におけるヴェルディの説明は、非常に興味深いものである。その文面からは、10音節詩行で愛国的な合唱曲を作るという発想自体がすでに陳腐なもので、彼の創作意欲を全く刺激しなかったことが窺える。そのためヴェルディは、初めの3行は最後の音節にアクセントのあるトロンコの詩行、4行目は後ろから3つ目の音節にアクセントのあるズドゥルツェの詩行で四行詩節を作ることにしたのだが、似たような方法がフィレンツェ初演版でも作曲家からの提案で用いられていたことは、ここで改めて指摘しておくべきだろう⁴⁹。

ヴェルディはまた、第3幕まで魔女の役を担当していた女声合唱を、第4幕ではスコットランドの女たちとして存分に活用するため、視界から消えてゆくマクベスとマクダフと入れ違いに彼女たちを登場させる新たな場（第10場）を設けることにした。続く最終場では、二群の男声合唱が用意されるが、そのうちの一つを軍随員の吟遊詩人に設定するのは、彼なりの時代考証である。パリ初演に先立って、ヴェルディはエスキューディエに対して、吟遊詩人についてはその衣装をしかるべきものとするのと、男声合唱の中でも声の良い人材を充てるようにと念を押している⁵⁰。

「短くしなければならなかったところ」とは、第9場全体と、最終場の「勝利の讃歌」が始まる前の部分のことを指しているのだろう。第9場はフィレンツェ初演時印刷台本 **FI**⁴⁷ では7音節詩行が8行分あったのに（本稿97頁【資料8】の左）、ヴェルディの案では無韻詩が4行、計40音節に減少している（本稿102頁【資料11】）。最終場については、ピアージェが1月24日に書いた詩行では、合唱の開始以前に無韻詩が4行置かれ、計40音節が費やされていたが（本稿98頁【資料9】）、ヴェルディはそれを24音節にまで削っている（【資料11】）。そ

47 全体は2頁半にまたがるはずである（**WGV10**の別冊校訂報告書43頁を参照）。Rosen and Porter, eds. 1984: 340の左下に、そのうちの1頁分についての非常に不鮮明な写真複製があるが、他の1頁半についてはオリジナルを閲覧する必要がある。本稿103～104頁参照。

48 Rosen and Porter, eds. 1984: 93-95より転載。

49 風変りな効果を出すために、ヴェルディは第1幕第1場の魔女たちの合唱の歌詞をトロンコの詩行で書くようにピアージェに対して依頼した。園田2011: 109-111に、関連する書簡と、出来上がった台本の該当部分の対訳がある。

50 ジェノヴァ発、1865年3月11日付のエスキューディエ宛書簡。Rosen and Porter, eds. 1984: 111を参照。フィレンツェ初演版当時にも、ヴェルディは興行主アレッサンドロ・ラナーリ Alessandro Lanari (1787～1852) に対して、マクベスの時代には絹や別珍は無かったのだから衣装の素材として使わないように、と指示している。園田2012: 36-37参照。

【資料10】ヴェルディとジュゼッピーナによる「勝利の讃歌」の詩行スケッチ
(サンタガタ、1865年1月24日以降、同月28日まで)

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[1] Giuseppina [=G] [Bard] Macbet Macbet ov'è? Spari l'usurpator [V] il fulminò Lo spense l'anniente Il Dio della vittoria</p> | <p>[第1詩節] ジュゼッピーナ [=G] [吟遊詩人] マクベス、マクベスはどこだ? 王位篡奪者は死んだ [V] 彼を打ち負かした 彼を殺した、彼を打ち破った 勝利の神は</p> |
| <p>[2] Verdi [=V] [V3] L'Eroe Macduff Egli è [V2] L'Eroe Macduff tu se' [V1] L'Eroe L'Eroe tu se' Plaudiam al nuovo Re Sien grazie al ciel Che spense il traditor [V1] il Re La patria a noi salvò [V4] A Lui onore e gloria [V3] s'innalz' inno [di] gloria [V2] Suonate [V1] A Lui onore e gloria A Lui fia [?] gloria Cantiam, la patria il Re che a noi salvò. S'innalz'un canto a Lui che ci salvò</p> | <p>[第2詩節] ヴェルディ [=V] [V3] マクダフは、彼は英雄だ [V2] 英雄だ、マクダフよーあなたは [V1] 英雄だ、英雄だ、あなたは 新しい王を称賛しよう 天のおかげで 裏切り者を殺した彼を [V1] 彼は祖国を、国王を救った 彼は私たちの祖国を救った [V4] 彼に名誉と栄光を [V3] 栄光 [の] 讃歌が湧き起らんことを [V2] 響かせたよえ [V1] 彼に名誉と栄光を 彼に栄光がもたらされんことを 歌おう、彼が救ったわが祖国を、国王を 我々を救った彼に歌が湧き起らんことを</p> |
| <p>[3] V Macbet Macbet ov'è Spari l'usurpator! [V1] Lo spense il fulminò Cessate il duol! Lo spense Il Dio della vittoria</p> | <p>[第3詩節] V マクベス、マクベスはどこだ 王位篡奪者は死んだ! 彼を殺し、彼を打ち負かした 苦しみを打ち消すがいいー彼を殺した 勝利の神は</p> |
| <p>[4] V [donne] [V1] Salgan mie grazie a te Ciascuno confida in te Gran Dio vendicator In gaudio il duol giongò A te lode a te gloria G donne Salgan mie grazie a te Gran Dio vendicator [G1] A chi ci liberò Chi l'empio eliminò [G1] Inni cantiam di gloria Onore s'abbia e gloria</p> | <p>[第4詩節] V [女たち] [V1] 私の感謝があなたの許へと届きますように それぞれがあなたを信じています 復讐する偉大な神よ 苦しみを喜びへと変えた あなたに賞賛と栄光を G 女たち 私の感謝があなたの許へと届きますように 復讐する偉大な神よ [G1] 私たちを解放してくださいださった方に 邪悪な人物を取り去った人が [G1] 栄光の讃歌を歌いましょう 名誉と栄光を得ますように</p> |
| <p>[5] G [Malcolm] Servi fidate in me Avrete gloria e amor Un Dio l'eroe guidò A Lui donò vittoria. G1 Popol confida in me [V2] Risorga il prisco onor [V1] Pace [?] darovvi e amor [G2] Ora tu avrai amor Ti darò pace e amor Splenderà</p> | <p>[第5詩節] G [マルカム] しもべたちよ、私を信用してくれ お前たちは栄光と愛を得ることだろう 神が英雄を導いたのだ 神は彼に勝利を与えたのだ。 G1 領民よ、私を信用してくれ [V2] かつての名誉がよみがえらんことを [V1] お前たちに平和と愛を与えよう [G2] 予、あなたは愛を得るだろう あなたに私は平和と愛を与えるだろう 輝くだらう</p> |
| <p>V Popol confida in me Risorga il prisco onor A Lui che si [?] salvò Onore, laude, e gloria</p> | <p>領民は私を信頼している かつての名誉がよみがえらんことを 自身を [?] 救った彼に 名誉と賞賛と栄光を。</p> |
| <p>[6] V [Soldati?] [V1] Ah si l'eroe Egli è! Grande Macduff tu sei [V1] Che spense il traditor Spegnesiti La patria il Re salvo [sic] A Lui onore è [sic] gloria</p> | <p>[第6詩節] V [兵士たち?] [V1] ああ、そのとおりだ、彼は英雄だ! マクダフー君は 偉大だ [V1] 裏切り者を殺した彼は 君は殺した 祖国を、国王を救った 彼に名誉と栄光を</p> |
| <p>[7] V [V1] ciascun in me Fidi in s [V1] Pace darogli [?] e amor Avrete pace Giorno novel schiarò Il dio della vittoria</p> | <p>[第7詩節] V [V1] それぞれが私を信用するがいい 信用するが [V1] 彼らに [?] 平和と愛を私は与えよう 君たちは平和を手に入れるだらう 新しい日が明けた 勝利の神よ</p> |
| <p>[8] V Siate fida Un dio ci liberò A Lui onore e gloria</p> | <p>[第8詩節] V 信用するがいい 神が私たちを解放した 彼に名誉と栄光を</p> |

【資料11】ヴェルディによるピアールヴェ宛の書簡（サンタガタ、1865年1月28日）

Sto per fare l'ultimo Coro, ma è una delle mille e mille cose che son dappertutto e che non fanno né caldo né freddo. Io ne ho immaginato uno che può avere qualche cosa di piccante e che sottometto alla tua approvazione.

Dopo la battaglia faccio venire dei *Bardi* che cantano l'Inno di vittoria. I Bardi (tu lo sai) seguivano in quei tempi le armate. I versi i primi tre tronchi, e l'ultimo sdrucchiolo. Ciò dà un'aria secca e fiera che sta bene ed ha carattere.

Siccome poi non bisognerà privarsi del sussidio delle donne così ho trovato il modo di farle entrare in scena.

Volta pagine e troverai tutto per disteso. I versi hanno bisogno della lima e tu l'userai ma farai presto. Ho dovuto accorciare qualche cosa come vedrai.

最終合唱を作曲しようとしているのだが、どこにでもあるものばかりで、痛くも痒くもない。僕はその箇所には何か刺激的なものをイメージしていたのだが、君の判断にゆだねるよ。

戦闘の後で、「吟遊詩人たち」を登場させるよ。彼らが勝利の讃歌を歌うんだ。吟遊詩人は（君も知ってのとおり）当時、軍隊に随行していたんだ。詩行は最初の3行がトロンコで、最後の行がズドウルツョロだ。それが乾いて残忍な雰囲気をもたらして良く合うし、特徴的だから。

それから、女声の助力なしで済ませる必要はないんだから、舞台上に登場させる方法を見つけた。

ページをめくると、全部書いてあるよ。詩行は膨張が必要で、君がそれをするんだが、早くやってほしい。見てのとおり、短くしなければならなかったところがある。

SCENA IX

Macbet incalzato da Macduff

MACD. Carnefice deg' figli miei l'ho giunto!
MAC. Fuggi!... Nato di donna
Uccidermi non può.
MACD. Nato non sono!
Strappato fui dal sen materno.
MAC. (*spaventato*) Cielò!
(*brandisce la spada e disperatamente battendosi con Macduff
escono di vista*)

SCENA X

Entrano donne scozzesi come nel principio dell'atto. La battaglia continua

DONNE Infausto giorno!... ovunque strage e morte!
Preghiam pe' figli nostri!...
Cessa il fragor!...
VOCI (*dentro*) Vittoria!...
DONNE (*con gioia*) Vittoria!...

SCENA ULTIMA

*Malcolm seguito dai soldati inglesi i quali trascinano prigionieri quelli di
Macbet - Macduff con altri - Bardi e popolo*

MAL. Ove s'è fitto
L'usurpator
MACD. Colà... da me trafitto!
TUTTI Salve o Re!
(*I Bardi s'avanzano ed intonano l'Inno*)
BARDI (*con entusiasmo*)
Macbet, Macbet ov'è?...
Spari l'usurpator...
Lo spense il fulminò
Il Dio della vittoria
(*volgendosi a Macduff*)
L'Eroe, l'Eroe egli è,
Che spense il traditor.
La Patria il Re salvò:
a Lui onore e gloria.
SOL. Ah sì; l'Eroe egli è
Che spense il traditor!
La Patria il Re salvò:
a Lui onore e gloria.
DONNE Salgan mie grazie a te
Gran Dio vendicator.
A chi ci liberò
Inni cantiam di gloria.
MAL. Fidate tutti in me!
È spento l'oppressor.
A Lui che ci salvò
Inni cantiam di gloria.
MACD. Ciascun si fidi al Re
Che il Ciel ci rende ancor
L'aurora che spuntò
Vi darà pace e gloria.
Aggiusta e manda tutto al più presto.

第9場

マクベス、マクダフに追い立てられて

マクダフ 息子たちの殺人者よ、お前に追いついた!
マクベス 立ち去れ!... 女から生まれた者は
俺を殺すことはできない。
マクダフ 生まれたんじやない!
母の胎を裂いたのだ。
マクベス (驚いて) なんだと!
(*剣を振り回し、絶望的になってマクダフと戦いつつ
彼らは境界から消える*)

第10場

第4幕冒頭と同様、スコットランドの女たちが入場する。戦いは続く

女たち 不吉な日!... どこかしこも殺戮と死体だわ!
息子たちのために祈りましょう!...
騒ぎが静まってきたわ!...
声 (袖から) 勝利だ!...
女たち (喜んで) 勝利ですって?...

最終場

マルカムはイングランド兵を従えている。彼らは捕虜としたマクベスの兵士たちを
連れていく — 他の兵士たちと共にマクダフ — 吟遊詩人たちと領民

マルカム どこで仕留められたんだ、
王位篡奪者は
マクダフ あちらで...私が討ちました!
全員 万歳、おお国王よ!
(*吟遊詩人たちが歩み出て、讃歌を歌う*)
吟遊詩人 (熱狂して)
マクベス、マクベスはどこだ?...
王位篡奪者は死んだ!...
彼を殺し、彼を打ち負かした
勝利の神は。
(*マクダフに向かって*)
英雄、彼は英雄だ、
裏切り者を殺した彼は。
祖国を、国王を救った。
彼に名譽と栄光を。
兵士たち ああ、そのとおりだ、彼は英雄だ
裏切り者を殺した彼は!
祖国を、国王を救った。
彼に名譽と栄光を。
女たち 私の感謝があなたの許へと届きますように、
復讐する偉大な神よ。
私たちを解放してくださいさつ方に
栄光の讃歌を歌いましょう。
マルカム 皆私を信じなさい!
暴君は死んだ。
私たちを救った彼に
栄光の讃歌を歌おう。
マクダフ それぞれが国王を信じますように、
天が再び私たちに返してくれた国王を
姿を現した嘴が
あなたたちに平安と栄光を与えるだろう。
整えて、全てを出るだけ早く送ってほしい。

【資料12】ヴェルディによるピアーヴェ宛の書簡（サンタガタ、1865年2月1日）

... Ho ricevuto i versi accomodati, e scusami, alcuni riescono più deboli e meno sonori. Per esempio il primo verso quando tu hai detto *Spari Macbet...* non si può andar più avanti. Mi pare molto meglio, ed ha maggior enfasi

... 訂正された詩行を受け取りました。悪いがいくつかの詩行はもっと弱くなって響きが悪くなっている。例えば1行目で君は「マクベスは死んだ...」とするけれど、それではもう前に進めないよ。この方がずっといいと思うし、より強力な感じになる

Macbet Macbet ov'è?

Dov'è l'usurpator...

Il prode eroe tu se'

Che spense il traditor

Che etc....

マクベス、マクベスはどこだ？

王位篡奪者はどこだ...

あなたは勇敢な英雄だ

裏切り者を殺した英雄だ

...などなど

quei due *Che* stan male assai.

Non mi par buono il primo verso dei soldati "*Ah si Macduffo Egli è!*" Non importa che sia *Macduffo* o *Paolo* o *Ignazio* - è meglio "*Ah si l'eroe egli è.*" Non mi piace pure la strofa delle donne, come anche l'ultimo verso "*Nunzio è di pace e gloria...*" È duro questo verso...

この2つの“Che”は非常によくないね。

兵士たちの1行目、「ああ、そのとおりだ、彼はマクダフだ!」も良くないな。マクダフだろうとパオロだろうとイニャツィオだろうとどうでもいいんだよ。「ああ、そのとおりだ、彼は英雄だ」の方がいいよ。女たちの詩節も気に入らない。最後の行、「平安と栄光の使者である」もね。この行は硬いよ...

の結果、“*Salve o Re*”という、孤立した4音節詩行が生まれることにもなった⁵¹。

ピアーヴェはヴェルディが送ってきた詩行を推敲してすぐに返送したのだが、残念ながらその手紙は失われてしまった。我々が手にしているのは、そのピアーヴェの返信に対する、2月1日付のヴェルディからの再返信のみである（本稿103頁【資料12】⁵²）。

肝心のピアーヴェからの返信が失われているため、ヴェルディが具体的に何に対して不満を述べているのかは、はっきりとはわからない。その後の詩行の変化は、残された手掛かりから推測するしかない。

まず、ヴェルディはピアーヴェの推敲を見て返事（本稿103頁【資料12】）を書いただけでなく、特製印刷台本 **I-BUcarrara(I)** に自分で書き入れておいた詩行に手を加えた。【資料13】（本稿106頁）を参照されたい。その中にある改変（略号 V1 ~ V3 [数字は改変の階層を表す]）に続く語句）は、ピアーヴェの助言に従った修正か、あるいはピアーヴェの推敲に触発されて思いついた新しい解決策、以上二通りの可能性があると思われる。どこにどのように手を加えたのかは、先行研究において逐一報告されているが⁵³、ヴェルディがあらかじめ **I-BUcarrara(I)** に書き込んでいた詩行については、残念ながらどの先行文献においてもそのテキストが完全には

51 この4音節詩行は、ヴェルディの《マクベス》の台本の中で、当時のイタリア・オペラ台本に一般的な書き方から唯一外れる箇所である。以下の第4章（129～159頁）を参照。Roccatagliati, Alessandro. 1996. : *Felice Romani librettista*. Lucca: LIM.

52 Rosen and Porter, eds. 1984: 95より転載。

53 *Ibid.*: 94-95を参照。

復刻されていない⁵⁴。そのため【資料13】は、ヴェルディが**I-BUcarrara(I)**に記した詩行が、1月28日にピアージェに送付した【資料11】(本稿102頁)の詩行と同一だったと仮定した上で、作成したものである⁵⁵。

その他、手掛かりとなり得るのは、ヴェルディが自筆総譜**A/65**に実際に書き入れた歌詞(本稿107頁【資料14】⁵⁶)と、最終稿**RI**⁶⁵(本稿97頁【資料8】の右)のテキストである。

これらを総動員することで、各々の詩節について、少なくとも以下のことが指摘できる。(1.~6.の番号は、第1~第6詩節を表す。)

1. ピアージェは1行目を“Macbet, Macbet ov'è?”ではなく“Spari Macbet”で始まるように推敲したが、ヴェルディはそれを拒否した。2行目の“Spari”を“Dov'è”に変更することにしたのは、ピアージェの提案かもしれない⁵⁷、ヴェルディ自身の案かもしれない。3行目の“Lo spense”は、おそらくピアージェの助言に従って、“D'un soffio”と置き換えたものと思われる。
2. ピアージェは1行目“L'Eroe, l'Eroe egli è”を、**RI**⁶⁵のとおり“L'eroe valente egli è”に変更したのかもしれない⁵⁸。しかしヴェルディは、そうするくらいなら“Il prode eroe egli è”としたほうがよいと考え⁵⁹、**I-BUcarrara(I)**にも**A/65**にも“Il prode eroe egli è”と書き込んだ。また、ピアージェは3行目を“Che”から始まる行としたようであるが、ヴェルディは2行目と3行目が両方とも“Che”で始まることに難色を示した。結局、3行目は変更せずに作曲された。
3. ピアージェは兵士たちの詩行1行目を“Ah sì; l'Eroe egli è”ではなく“Ah sì Macduffo Egli è!”としたが、ここでマクダフの名前を強調することには意味がないので、ヴェルディは採用しなかった。彼にとっては、マクベスを倒した人物の名前は「マクダフだろうとパオロだろうとイニャツィオだろうとどうでもいい」ことだった⁶⁰。だが作曲を進めていくうちに、344小節以下で吟遊詩人たちと兵士たちを同時に歌わせることにしたので、兵士たち

54 先にも述べたとおり(本稿100頁注47)、Rosen and Porter, eds. 1984: 340の左下に掲載されている写真複製は一部のみである。**WGV10**の別冊校訂報告書では、**A/65**に書き込まれている歌詞と**I-BUcarrara(I)**および**RI**⁶⁵のテキストの間で異同がある場合には、**I-BUcarrara(I)**のテキストを問題のある部分のみ転記する(238~245頁参照)。

55 もっとも、**WGV10**の別冊校訂報告書によれば(243頁)、【資料13】(本稿106頁)において、マクダフの詩節の2行目にある“vi”(※印を参照)は、【資料11】(本稿102頁)では“ci”になっている。このような異同は他にもあるのかもしれないが、これ以上のことはオリジナルを参照しなければわからない。

56 **WGV10**, N. 15より転記する。波線強調は筆者によるもので、最終稿**RI**⁶⁵(本稿97頁【資料8】の右)のテキストと異なるところを示す。なお、ヴェルディは1865年2月3日に**A/65**の当該部分を写しを取らせるためリコルディに送付したが、書き忘れに気付いて返却させた。よって、その後再びリコルディに送りなおした1865年2月7日が、当該部分成立の下限となる。Rosen and Porter, eds. 1984: 98-100を参照。

57 ピアージェが1行目を“Spari Macbeth”で始めたなら、繰り返しによる効果を狙おうともしない限り、2行目にある“Spari”はおそらく別の単語にしていたはずである。

58 **WGV10**の別冊校訂報告書242頁はそのように推測している。

59 同前の解釈によれば、【資料12】(本稿103頁)の中でヴェルディが“Il prode eroe tu se'”と書いたのは、単なる記憶違いである。

60 【資料12】(本稿103頁)を参照。

の詩節は吟遊詩人たちの第2詩節と同一であった方が音楽的には都合が良くなった。よってA/65ではそのように変更されたが、I-BUcarrara(1)とRI⁶⁵においては、当初の詩行のままとされた。その理由は不明である。

4. 女たちの詩節にもピアーヴェは何らかの手を加えたが、ヴェルディは気に入らなかった。RI⁶⁵にある“Salgano grazie a te”がピアーヴェの提案した詩行であるのかどうかはわからない⁶¹。いずれにせよ、ヴェルディがI-BUcarrara(1)に記した1行目“Salgan mie grazie a te”の方が、当該部分の旋律には適格であったので、A/65にもそのように歌詞は書き込まれた⁶²。なお、ピアーヴェの助言、あるいはヴェルディの推敲によって、I-BUcarrara(1)3行目の“ci”は、同じ意味だが文語調の“ne”に変更された。A/65においてもRI⁶⁵においても、“ci”ではなく“ne”になっている。
5. マルカムの詩節については、ヴェルディはI-BUcarrara(1)に代案をいくつも書き入れているが、ピアーヴェ宛の再返信(本稿103頁【資料12】)では何も触れていない。このことが何を意味するのかわからない。A/65には、I-BUcarrara(1)において最終的にたどりついた詩行が書き込まれたが、RI⁶⁵では2行目冒頭が推敲前の“È spento”に戻っており、加えて4行目冒頭が“per noi”ではなく“tra noi”になっている。
6. ヴェルディはマクダフの詩節の1～2行目を、I-BUcarrara(1)において“S'affidi ognun al Re / Ridato al nostro amor”と訂正した上で作曲した。ピアーヴェの助言だったのかもしれないが、確証はない。最後の行“Vi darà pace e gloria”は、ピアーヴェが“Nunzio è di pace e gloria”に変えたが、ヴェルディは硬くて良くないと考え⁶³、元の詩行のまま作曲した。RI⁶⁵においてそれが“Ne reca pace e gloria”になった理由は不明である。

(4) まとめ

以上のとおり、第11a番と第15a番の台本改訂については、第7a番とは異なって、その隅々まではわからない。しかし、フィレンツェ初演から18年の歳月を経てもなお、ヴェルディが

61 WGV10の別冊校訂報告書も、この点については何もコメントしない。

62 WGV10, mm. 329-336を参照。“Salgan mie grazie a te”は2小節にわたって放物線を描くように作曲されており、最高音である4拍目にはアクセントも付けられている。この歌詞を“Salgano grazie a te”とすれば、アクセントのない音節“-no”が最高音とアクセントによって不必要に強調されてしまう。最高音に“o”の母音を充てるのも、声楽的に見てあまり好ましいことではないだろう。



なお4拍目のアクセントは335小節まで繰り返され、女たちの合唱の音楽的特徴になっている。

63 【資料12】(本稿103頁)を参照。

【資料13】 ピアーヴェからの返信を受領後 I-BUcarrara(I) にヴェルディが書き入れた変更
(サンタガタ、訂正部分は1865年1月28日より後)

| | | | |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| BARDI | Macbet, Macbet ov'è?... [V1] Dov'è Spari l'usurpator... [V1] D'un soffio Lo spense il fulminò Il Dio della vittoria [V1] Il prode Eroe L'Eroe, l'Eroe egli è, Che spense il traditor. La Patria il Re salvò: a Lui onore e gloria. | 吟遊詩人 | マクベス、マクベスはどこだ?... [V1] どこだ 王位篡奪者は死んだ... [V1] 一息で 彼を殺し、彼を打ち負かした 勝利の神は。 [V1] 勇敢な英雄 英雄、彼は英雄だ、 裏切り者を殺した彼は。 祖国を、国王を救った。 彼に名誉と栄光を。 |
| SOL. | Ah si; l'Eroe egli è Che spense il traditor! La Patria il Re salvò: a Lui onore e gloria. | 兵士たち | ああ、そのとおりだ、彼は英雄だ 裏切り者を殺した彼は！ 祖国を、国王を救った。 彼に名誉と栄光を。 |
| DONNE | Salgan mie grazie a te Gran Dio vendicator. [V1] ne A chi ci liberò Inni cantiam di gloria. | 女たち | 私の感謝があなたの許へと届きますように、 復讐する偉大な神よ。 [V1] 私たちを 私たちを解放してくださった方に 栄光の讃歌を歌いましょう。 |
| [V1] Confida o Scozia MAL. | Fidate tutti in me! [V1] Fu È spento l'oppressor. [V3] La gioja etererò Per noi di tal vittoria. [V2] Chi Patria e Re salvò Inni cantiam di gloria. [V1] A Lui che ne salvò Inni cantiam di gloria. A Lui che ci salvò Inni cantiam di gloria. | マルカム | [V1] おおスコットランドよ、信じなさい 皆私を信じなさい! [V1] 死んだ 暴君は死んだ。 [V3] 私はこのような勝利の喜びを 私たちのために永遠のものとするだろう。 [V2] 祖国と国王を救った人を 栄光の賛歌を歌おう。 [V1] 私たちを救った彼に 栄光の讃歌を歌おう。 私たちを救った彼に 栄光の讃歌を歌おう。 |
| MACD. | [V1] S'affidi ognun Ciascun si fidi al Re [V1] Ridato al nostro amor. Che il Ciel vi* rende ancor L'aurora che spuntò Vi darà pace e gloria. | マクダフ | [V1] 各人が信じますように それぞれが国王を信じますように、 [V1] 再び私たちの愛に与えられた国王を。 天が再びあなたたちに*返してくれた国王を 姿を現した曙が あなたたちに平安と栄光を与えるだろう。 |

ルスコーニの翻訳に立ち返って言葉を探し、彼なりの時代考証を反映させて改訂を行っていたことは、限られた資料からであっても十分に理解できるだろう。

また、本稿で確認したとおり、台本の中でも有節詩行で書かれる部分に関しては、ヴェルディは楽想と歌詞を必ず同時に練っている⁶⁴。彼にとっては、楽想と歌詞は各々が別個に成立するものではなく、魅力的な楽想と、それを効果的に伝える言葉は、相互に密接に関連するものなのだろう。ヴェルディのオペラ創作の要諦は、まさにこの点にあるのかもしれない。

【資料14】ヴェルディが自筆総譜（A/65）に書き入れた最終合唱の歌詞

(1865年2月7日以前)

| | | | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| BARDI | Macbeth, Macbeth ov'è?... Dov'è l'usurpator! D'un soffio il fulminò Il Dio della vittoria. Il prode eroe egl'è che spense il traditor! La Patria, il Re salvò; a lui onore e gloria! | 吟遊詩人 | マクベス、マクベスはどこだ?... 王位篡奪者はどこだ! 彼を一息で打ち負かした、 勝利の神は。 彼は勇敢な英雄だ、 裏切り者を殺した彼は! 祖国を、国王を救った。 彼に名誉と栄光を! |
| SOL. | Il prode eroe egl'è che spense il traditor. La Patria, il Re salvò; a lui onor e gloria! | 兵士たち | 彼は勇敢な英雄だ、 裏切り者を殺した彼は。 祖国を、国王を救った。 彼に名誉と栄光を! |
| DONNE | Salgan mie grazie a te, gran Dio vendicator; a chi ne liberò inni cantiam di gloria. | 女たち | 私の感謝があなたの許へと届きますように、 復讐する偉大な神よ。 私たちを解放してくださった方に 栄光の讃歌を歌いましょう。 |
| MAL. | Confida, o Scozia, in me! *1 fu spento l'oppressor! La gioia eternerà per noi di tal vittoria! | マルカム | おおスコットランドよ、私を信じなさい! 暴君は死んだ! 私はこのような勝利の喜びを 私たちのために永遠のものとするだろう! |
| MACD. | S'affidi ognun al Re *2 ridato al nostro amor! L'aurora che spuntò Vi darà pace e gloria! | マクダフ | 各人が国王を信じますように 再び私たちの愛に与えられた国王を! 姿を現した曙が あなたたちに平安と栄光を与えるだろう! |
| *1 | 351小節以降は以下ようになる。 (o) Scozia t'affida in me | | (おお) スコットランドよ、私を信用してくれ |
| *2 | 351小節以降は以下ようになる。 Ognun(o) s'affidi al Re | | 各人が国王を信じますように |

本研究は JSPS 科研費 23520187 の助成を受けたものである。

(本学講師＝音楽学担当)

64 WGV の編集主幹ゴセットは、少なくとも 16 のオペラについてヴェルディの楽譜の自筆スケッチを観察すると、彼が間違いなく特定の単語の組み合わせを念頭に置きながら楽想を發展させたことがわかる、と述べている。以下の第 11 章 (“Words and Music: Texts and Translations”) の 371 ~ 374 頁を参照。Gossett, Philip. 2006. : *Divas and Scholars: Performing Italian Opera*. Chicago and London: The University of Chicago Press.